

校内の課題 議場で討論

松本市役所で 議員と行政双方を体験

松本秀峰中等教育学校の3年生約80人が14日、松本市役所の議場を使って模擬議会を開いた。生徒たちは議員役として質問するだけでなく、答弁する行政側の役割も務め、校内のさまざまな課題を取り上げて討論し、体験を通して議会制民主主義への理解を深めた。市議会事務局によると、子供が市長らに質問する「子ども議会」はこれまでも行われているが、議員側と行政側の双方を体験するより踏み込んだ形は「過去に例がない」という。(小岩井貴之)

秀峰3年生 模擬議会

18歳選挙権が始まり、若い世代の市政への関心を高めようと、市選挙管理委員会が学校に議会見学などを呼び掛けたところ、同校が社会科の授業の一環として模擬議会を企画した。生徒たちは議会の役割や仕組みについて事前に学習し、質問主意書や答弁書も作成して「本番」に臨んだ。議題は、校内BGM

のリンクエスト拡充や、全教室への加湿器導入、授業の合間の携帯電話使用許可など、日頃の学校生活や行事で課題と考えていることが取り上げられた。生徒会の各委員らが行政側のなり、議員役の生徒たちがぶつける疑問や要望に答えた。



松本市役所の議場で開かれた模擬議会で質疑応答する生徒たち

の羽田旺将君(15)は「二対一ではなく、公を」と話し、議長役の内沢一颯さん(15)は「準備は大変だが、一人一人が意見を交わされる議会はやはり必要」と実感していた。

市議会事務局によると、平成6年と9年に市長らが小中学生の質問に回答する「子ども議会」が催された。市議会は今月5月、子供向けの広報紙「子どもだより」を初めて発行するなど啓発に力を入れており、市川英治事務局長は「模擬議会は市議会の役割を知る良い取り組み。若者もつと市政への関心を持つてくれればうれし」と話していた。